

教育体制の新しい試み

愛知淑徳大学は開学以来、教育体制を絶え間なく改革してきました。それは大学の理念である「違いを共に生きる」をもとに、大学がめざし、学生が学び得ることとして「地域に根ざし、世界に開く」、「役立つものと変わらないもの」、「たくましさやさささ」を達成するために他なりません。現行の教育体制を自己点検して評価を加え、新たな発想とスキルをもって、平成16年度からスタートする新しい教育体制を計画しています。この計画の骨子は、多種多様な学習意欲を持つ学生のニーズに応え、支援するための教養科目、言語活用科目、コンピュータ活用科目を全学共通の授業科目群として設置することと、スペシャル・タームの授業の実施体制です。

教育体制の改革

平成16年度からは、医療福祉学部とビジネス学部の2学部の開設によって、6学部構成に向けた全学共通科目群の新しい教育体制をスタートさせます。

全学共通科目群の整備
全学共通科目の開設により、受講する学生は、所属する学部・学科・専攻の専門分野の授業科目とは異なる分野の授業科目の履修が可能となり、幅広い学問分野の知識や技能を習得することが出来ます。さらに学生は、異なる学部・学科・専攻の学生と共に学ぶことを通して、広く交流することもできます。

は、昭和50年度の文学部をもって開学してから、文学部と現代社会学部との2学部からなる時代までは、それぞれの学部独立型で編成されていましたが、平成12年度にコミュニケーション学部と文化創造学部が増設されて4学部構成となり、全学共通の教育課程と各学部独自の教育課程がそれぞれ編成されるようになりました。同時に、すでに現代社会学部の授業科目はすべて半期完結のセメスター制を採用していましたが、この制度を全学部の授業科目に適用しました。

学部独自の教育課程も、学部共通科目と、その学部を構成する学科・専攻の独自の専門分野の科目に分かれ、この学部共通科目は、学部の中で共通基礎科目を配置し、学科・専攻の専門科目は、独自の特色ある授業科目を開設し、専門的知識や技能が習得できるように構成されています。

一方で、学部・学科・専攻の授業科目は、この全学共通科目を受講して幅広い基礎学力を習得した学生に、各学部等の教育目標のより高度な専門分野や資格取得のための科目を開設することによって、高い教育効果を上げることが可能となります。

このような目的をもち、平成16年度から、全学共通科目である教養科目、言語活用科目、コンピュータ活用科目の開設がスタートします。

教育科目の計画案

大学設置基準に、教育課程の編成に当たっては、大学は学部等の専攻に係る専門の学芸を教授することと、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配置しなければならない」とある授業科目を、本学では教養科目と称して開設しています。

本学の教養科目の授業科目の領域と内容は、幅広く総合的な科目と学部・学科に関連する学問分野の基本的・概念的分野の科目を配置しています。

本学の学生が等しく授業科目を履修できると共に、他の学部・学科の専門領域の授業科目を履修可能になるので、いわゆる学部・学科の壁を低くする役割を果たすこととなります。

本学ではこの教養科目に、新たに「違いを共に生きる」という本学理念を統一テーマとして、(1)「人間の尊厳」、「(2)「人間の協調」、「(3)「健康と福祉」、「(4)「自然と共に」、「(5)「自己を磨く」、「(6)「学問の基礎」の6つの項目テーマを設定して、各項目テーマごとに構成した科目を開設する計画です。

具体的には、(1)「人間の尊厳」の授業科目の「外国の言語と文化」の各科目には、必ず語学の初歩を設定して、その国を訪れても簡単な会話ができるように配慮されています。さらに中国、朝鮮半島を始めとして、本学が欧米に限ることなくアジアにも視点を向けていることも大きな特色と言えます。

各授業科目は、全科目とも原則として選択としますが、学部・学科の必要に応じて、一部の科目を必修科目、指定科目として設定されることもあります。

卒業に必要な履修単位として、下限を10単位として各学部・学科ごとに定められています。

さらに教養科目は、原則的に全科目を開放講座として、学外の社会人にも聴講生や科目等履修生として受講希望者を受け入れています。昨年度は、102人の社会人受講生が学生と共に履修されました。

教養科目カリキュラム案

項目テーマ	内容	授業科目
(1) 人間の尊厳	一人ひとりの人権を尊重し、人間としての生き方や社会のルールを学ぶ。	日本国憲法 民主主義と人権 哲学的人間論 生命倫理学 宗教的人間論 現代社会と倫理 ジェンダーと社会 女性学・男性学 大衆文化論 暮らしの法律
(2) 人間の協調	民族の歴史と文化、国家の政治と経済の仕組みの違いを学び、他者との協調の精神を培う。	文化人類学 比較文化論 国際政治論 国際交流論 外国の言語と文化（朝鮮半島） 外国の言語と文化（ドイツ） 外国の言語と文化（フランス） 外国の言語と文化（ロシア） 外国の言語と文化（スペイン） 日本と外国の歴史（日本） 日本と外国の歴史（郷土） 日本と外国の歴史（東洋） 日本と外国の歴史（西洋） 地域コミュニティ論 東アジアの生活と文化 ビジネスの世界 暮らしの経済
(3) 健康と福祉	自らの健康について留意し、社会福祉の理念と実践を学ぶ。	健康と医学 健康とくすり メンタルヘルス ライフサイクルと健康 スポーツ科学 健康と運動 現代社会と福祉 ボランティア論 手話・点字 スポーツ文化論
(4) 自然と共に	自然との摂理や生き物の生態を学び、自然環境保護の意識を体得する。	生き物の世界 人類と宇宙 生命の科学 環境保護論 食品の科学 暮らしの化学
(5) 自己を磨く	感性を磨き情緒豊かな人生、よりよい人間関係のあり方について学ぶ。	文学（日本） 文学（中国） 文学（欧米） 現代の芸術（書道） 現代の芸術（音楽） 現代の芸術（美術） 現代の芸術（映画） 現代の芸術（演劇） 伝統芸能 現代マナー論 文章表現 言語表現 メディア表現 職業と人生 生涯学習論
(6) 学問の基礎	本学の学部・学科の関連分野の専門領域の基礎を学ぶ。	心理学 社会学 法学 政治学 経済学 数学 生物学 物理学 統計学

4 教育体制の新しい試み

言語活用科目の計画案

国際化と文化の多様化が進む今日、学生の専攻如何に関わらず、外国語の運用能力を身に付けておくことにより、将来の活動の可能性が確実に広がっていくでしょう。本学の学生が、ツールとして使うに十分な外国語運用能力を習得し、様々な分野で活躍してくれることを期待して、言語活用科目が設定されています。

本学の言語活用科目は、世界の共通語である英語と、世界で一番多くの人に使われている中国語を必修科目として、その他の外国語あるいは日本語表現技術科目などは、各学部・学科・専攻の教育目的に応じ、それぞれの部門で必要な科目が開設されます。

英語カリキュラム案

本学では早くから英語コミュニケーション能力の育成を、全学の英語教育の共通目標としてきました。まず平成12年4月に文化創造学部の新入生を対象としたTOEIC Iテスト（TOEICの団体特別受験制度）の実施に始まり、平成13

年度からは、全学部の新入生にTOEIC Iテストを実施しました。本学の英語の授業科目の多くはこのTOEICスコアをもとにした習熟度別クラス編成を行い、TOEICデータに基づいた英語教育の確立に取り組んできました。

全学の学生は、1年に2回、学内でTOEIC Iテスト受験の機会が与えられ（費用は大学負担）、各自の英語運用能力を客観的に把握することが出来ます。このように、学生の学ぶ意欲を引きだし、その意欲に「TOEIC」をめざした英語教育

体制の中で、10カ月間でTOEICスコアを300点以上アップさせる学生もおり、本学の取り組みはすでに一定の成果を上げてきたと自覚が言えます。

平成16年度から、全学英語教育のさらなる充実と質の統一をはかるため、「英語コミュニケーション科目」、「ASU TOEIC」、「上級英語セミナー」から構成される全学共通英語カリキュラムが準備されています。

「英語コミュニケーション」から「英語コミュニケーション」までの8科目は、全学部の主に1、2年生を対象として、基礎的な英語コミュニケーション能力の育成を目標として、

中国語カリキュラム案

近年、中国がめざましい経済発展を遂げ、このような背景のもとに、中国語の学習ブームがアジア諸国を始め、世界的に広がっています。本学においても中国語の学習を希望する学生が着実に増えています。日本から中国に進出する企業が増加するのを受けて、中国語のできる人材を求める企業も増加しています。

本学はこのようなニーズに応えるために、全学共通の言語活用科目に中国語を必修科目として、社会に出て、高度な中国語のエキスパートとなることをめざす学生にも応えることができない全学的な中国語の教育

体制を計画しています。開設科目は3つのレベルに分け、それぞれ一般科目群とHSK資格取得科目群から構成されています。HSKとは中国語の「漢語水平考試（漢語の能力試験）」のことです。「漢語水平考試」の中国語の発音「Hanyu Shuiping Kaoshi」の頭文字から名付けられたものです。

このHSKには、基礎、初中等、高等の3つの等級がありますが、中国以外の国の中国語の学習者の最大の目標は、HSK初等級の8級とされています。本学でもこのHSK初等級の8級をレベル3の合格をめざす教

育目標としています。カリキュラムはゼミスター制にちよ半年ごとに完結し、会話と読解の両方をバランスよく履修できるように工夫されています。

その環としての英語学習相談コーナー、留学相談コーナーでは、学習プランから海外留学などの相談にいたるまで、幅広い支援を行っています。さらに、コンピュータ施設でのTOEIC対策ソフト教材や視聴覚教材を使った個人学習により、各自の英語能力をより確実なものにすることができるよう。海外プログラムも充実しており、提携大学との交換留学制度のほかに、英語学習・異文化体験などを目的とした短期海外研修プログラムが用意され、多くの学生が参加しています。

さらに、学生の効率的な学習プランや、中国留学などの相談ができる学習相談コーナーを設置しています。また、視聴覚教材による個人学習、コンピュータによる個人学習、中国からの留学生との個人会話、同時通訳の授業など、充実したサポート体制を設けています。

中国語カリキュラム案

レベル	一般科目群	HSK資格取得科目群	目標レベルと具体的な内容
レベル1	中国語読解1A 中国語読解1B 中国語読解2 中国語会話1A 中国語会話1B 中国語会話2	HSK基礎コースA HSK基礎コースB	目標は、HSK基礎試験の3級に受かることである。語彙量は400～1500前後となり、基本的な文法要項はマスターする。一般的な挨拶、旅行先での買い物、大学の紹介、家族の紹介ができること。
レベル2	中国語読解3 中国語読解4 中国語会話3 中国語会話4	HSK初等コースA HSK初等コースB HSK中等上級コースA HSK中等上級コースB	目標は、HSK初中等試験3級、4級、または5級に受かること。語彙量は1500～2500前後となり、その語彙量に相応する文法事項をマスターする。天気について、趣味について、また大学の生活について、名古屋について語ることができること。
レベル3	中国語作文1 中国語作文2 同時通訳入門1 同時通訳入門2	HSK中等高級コース1A HSK中等高級コース1B HSK中等高級コース2A HSK中等高級コース2B	目標は、HSK初中等試験の6級、7級、または8級に受かること。語彙量は2500～4000前後となり、その語彙量に相応する文法事項をマスターする。会話のみでなく、一般的な文章が書けること、初歩的な通訳ができることが期待される。

英語カリキュラム案

科目名	概要
英語コミュニケーション1 (TOEIC)	就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身に付ける。
英語コミュニケーション2 (リスニング)	短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身に付ける。
英語コミュニケーション3 (リスニング)	英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身に付ける。
英語コミュニケーション4 (リーディング)	英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身に付けるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。
英語コミュニケーション5 (TOEIC)	就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身に付け、英語の総合力を高めることを目標とする。
英語コミュニケーション6 (オーラルコミュニケーション)	自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための基礎的な能力を、演習形式で身に付ける。
英語コミュニケーション7 (オーラルコミュニケーション)	自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身に付ける。
英語コミュニケーション8 (リーディング)	さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。
ASU TOEIC	TOEICスコア470点以上の学生を対象として、多くの演習問題を課し、TOEICのスコアアップに重点を置く。
上級英語セミナー	TOEICスコア600点以上の学生を対象とする最上位レベル科目で、英語コミュニケーション能力の総合的な上達をめざし、インプットとアウトプットの両面から、「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」内容とする。ディベート、ディスカッションなどの言語活動を行い、最上位クラスに相応しい内容として、英語圏の大学院進学に必要なTOEFL 550点以上や、就職時に即戦力となる英語コミュニケーション能力 (TOEIC 860点) をめざす。

教育体制の新しい試み

コンピュータ活用科目の計画案

情報技術は、社会、産業、学問などの分野を問わず、今後の社会生活を営む上で、不可欠な基礎的な能力の一つです。本学では学部・学科を問わず、多様な情報技術教育が実施されていますが、平成16年度から、情報技術教育の基礎教育成果を高めるため、全学共通のコンピュータ活用科目を設置します。これら全学共通のコンピュータ活用科目は、共通科目群レベル、共通科目群レベルと資格取得科目群の3つの科目群から構成されます。

レベルの科目は、各学部・学科で独自のより高度な情報技術科目を受講する場合に、その授業ベースに必要なコンピュータリテラシー（操作の部分）や基本概念について、コンピュータ実習を通じて習得します。

この必修的色彩を持つ科目は、能力テストを実施して初級、上級のクラス編成を行い、昨今の情報技術教育の問題点の一つである受講者の技術レベル格差問題を解消することを意識しています。

レベルの科目はレベルの上位科目として、情報技術応用に必要不可欠な共通基盤の構築が目標。この選択科目的色彩を持つ科目は各学部・学科のより高度な専門科目の受講と併行して、情報技術の専門的な概念について、コンピュータ実習を通じて習得します。

このうち、情報技術基礎とネットワーク技術入門の2科目は

コンピュータ活用科目のカリキュラム案

科目群	科目名	目標レベルと具体的な内容
共通科目群レベル	情報技術基礎（初級、上級）	情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴を始め、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用操作技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。
	情報技術基礎（初級、上級）	情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびにアプリケーションソフトウェアに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習を通じて学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴を始め、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎と同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。
	情報技術基礎	情報技術基礎を踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。
共通科目群レベル	ネットワーク技術入門	ネットワーク(network)という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。ここでは、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成およびCGプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。
	プログラミング入門	システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、その基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語を持つ特徴ならびに機能の学習から始め、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を平行して行う。
	情報数学入門	情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。ここでは高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。
	CG入門	コンピュータグラフィックス(CG)に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。各分野での応用例を紹介した上で、画像・映像についての知識を身に付け、モデリング・レンダリングについての技術を学び、最後にCG作成に必要なハード/ソフトについて概説する。
資格取得科目群	人工知能入門	人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および処理方法について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、できる限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。
	情報処理技術特殊	情報技術者として、基本的かつ共通的な知識を持ち、主としてプログラム設計書を作成したり、具体的なプログラム作成作業を行う技術を持つ、基本情報処理技術者の資格取得を目標とした教育科目。
	情報処理技術特殊	情報技術者として、ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識を持ち、主として外部仕様に基づきソフトウェアを作成したり、また具体的なプログラム作成作業を行う基本情報処理技術者に対して指導したりする技術力ならびに指導力を持つ、ソフトウェア開発技術者の資格取得を目標とした教育科目。
	情報処理技術特殊	CG(Computer Graphics)技術者として、CG技法や関連分野についての基本的な知識を持ち、アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる能力を持つ、CG検定2級の資格取得を目標とした教育科目。
情報処理技術特殊	CG(Computer Graphics)技術者として、CG技法や関連分野についての高度かつ専門的な知識を持ち、高度なアルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる能力と共に指導力を持ち合わせた、CG検定1級の資格取得を目標とした教育科目。	

スペシャル・タームの授業の実施

本学で学ぶ学生が所定の年限で卒業するためには、学則に定められた正規の学期（前・後期）に開設される講義・演習に出席して、必要な単位を修得できるように授業を実施しています。これをレギュラー・タームの授業とします。しかし単に学士の称号の取得だけでなく、教員免許状を始め、各種の資格取得や検定試験合格を希望する多くの学生がいます。この多様な学生の学習意欲に応え、支援するため設置される全学共通授業科目群の授業が、このレギュラー・タームに各学部・学科の専門科目と並列して開講されると、履修が困難になります。このため、夏季・春季特別授業期間や、土曜日、正規授業時間外の第6時限の、いわばスペシャル・タームに授業を実施することによって、このような意欲を持った学生のニーズに対応すると共に支援する教育体制を整備します。

レベルの科目と併せて、コンピュータ活用科目として、1年次後期履修の選択必修的な色彩を持つ科目として位置づけています。

さらに情報技術教育の成果をより一層、具現化するため、コンピュータ活用科目体系に現行の情報技術者資格を指標とした目標レベルを設定しています。

資格取得科目群は、具体的に情報技術者資格をめざす科目群で、これらの授業科目では、事前に受講希望者に適性試験を実施し、授業についても集中授業を実施して、教育効果を高く維持するよう意図されています。

本学の全学部・学科の講義・演習などの授業期間は、セメスターと呼ばれる前期と後期の2つの学期制で開設されています。

前期授業期間は4月からスタートして7月下旬までの期間（試験を含む）です。8・9月は夏休みですが、集中講義と呼ばれる短期間の授業が開講されることがあります。後期授業期間は10月からスタートしてお正月前後の冬休みをはさみますが、1月までの授業期間（試験を含む）となります。また、2・3月は春休みとなります。

学生は学則に定められた卒業に必要な単位の修得のため、前期と後期の授業期間の月曜日から金曜日まで

の第1時限（9時10分～10時40分）から第5時限（16時40分～18時10分）までの正規授業時限に各学部・学科の専門科目の授業を履修することになります。これを仮にレギュラー・タームの授業と呼びます。

しかし学生の中には、学士の称号を取得する以外に、教員免許状などの各種資格、情報処理技術の検定や外国語の運用能力の修得などに学習意欲を持っている多くの学生がいます。しかし、資格取得や能力向上をめざす学生が、それらに必要な科目を履修するとき、その授業がレギュラー・タームの授業と並列で開講されていることは、履修することが困難になります。

このため平成16年度から、夏季特別授業期間、春季特別授業期間に加えて、土曜日（土曜講座）および平日の第6時限（18時20分～19時50分までの90分授業）の授業を実施する計画です。

これはレギュラー・タームの授業に対して、いわばスペシャル・タームの授業と言えます。

このようなスペシャル・タームに開講する授業科目として、全学共通の授業科目である教養科目、言語活用科目、コンピュータ活用科目、各種の資格取得科目の授業科目の一部が挙げられます。

レギュラー・タームとスペシャル・タームの授業計画

